仙台YMCA
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.349.2023
仙台青年
SENDAI YMCA NEWS
4

2023 年 4 月 20 日発行
公益財団法人仙台 YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町 9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島晃子

新総主事 加藤 雄一

『あらゆる瞬間が愛で溢れますように』

皆様、こんにちは。4月より総主事を拝命いたしました加藤雄一と申します。
仙台YMCAが生まれてから118年、10代目の総主事として仙台YMCAの使命を果たすための働きを受け継ぐこととなりました。精一杯努めてまいります。

仙台YMCAの使命の冒頭には、「イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ…」とあります。私たちの様々な活動の中に、その生き方が実現され、愛が満ち溢れるものとなるよう努力してまいります。仙台YMCAの活動にはこれまで同様、皆様のご協力が不可欠です。引き続き仙台YMCAをよろしくお願い申し上げます。

今回年間聖句として選んだ箇所に、「憐れみの心で接し」とあります。「憐れみの心」とはどんな心でしょう。
「憐れみ」の語源であるヘブライ語はレーハム(recham)で、その元々の意味は女性の子宮、はらわたを意味し、これはまた「慈しみ」の語源でもあります。憐れみと慈しみ、どちらも深い深い想い、「愛」が感じられます。その感情は、ちょっとやそっとのものではなく、はらわたを動かすほどのものということです。

コロナによって人とのコミュニケーションがさらに希薄になっていると言います。子どもたちはマスクの影響により感じる力や表現力が低下しているともいわれています。子どもたちだけなく、多くの方が行動制限の中にあって影響をうけているはずです。今後、コミュニケーションの機会が回復し、以前のように人と触れ合うことが多くなります。これまでの障害の影響でトラブルも多くなるかもしれません。

しかし、どうぞ皆様、良い関係構築のため、互いに親切にし、心が揺さぶられるような愛情をもって目の前の人に接し、社会にあって小さくされている人々に気づき、共に歩むことを進めていく年としていきましょう。

YMCAで行われているすべてのプログラムのあらゆる瞬間に起こるできごとが、愛で溢れますよう祈っています。

新年度ご挨拶

仙台YMCA 会長　菅野 健

早咲きの桜と共に、多くの子どもたちや学生たちが 3年ぶりに、保護者同席のもと、卒業式や入学式を迎えることができました。不安な生活を余儀なくされ、オンラインでの授業や学校行事の中止や縮小など、多くの思い出が失われた 3年間でした。その中でマスクを外してのセレモニーの開催は、喜びもひとしおだったでしょう。

YMCAにおいても、コロナ化の非常事態宣言が発令される中、保育園や幼稚園、児童館などで急な休業措置を取ることとなり、子どもたちはもちろん、保護者の皆様にも多大なるご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。また、休業措置へのご協力を賜り、感謝の言葉もございません。この間、YMCAが大切にしているバザーやチャリティーランなどの特別プログラムも通常通り実施できませんでしたが、ミニバザーの開催やチャリティーランのグッズ販売など、新たな活動を通して支援を呼びかけ、皆様から多くのお気持ちとご寄付をいただくことができましたことを改めて感謝申し上げます。

ご報告となりますが、仙台 YMCAでは、3月 31日付で第 9代総主事の村井伸夫氏が退任し、4月 1日付で第 10代総主事として加藤雄一氏が就任いたしました。

村井氏は東日本大震災後、社会情勢が混乱を極める中、卓越したリーダーシップにより財政的に困難な状況にあった仙台 YMCAの立て直しを図りつつ、東日本大震災で被災された多くの方々に寄り添うとともに、全国の YMCAやワイズメンズラブ、諸団体と被災地との絆を育み、復興支援の中心的役割を担われました。

就任された加藤氏は学生時代からボランティアリーダーとして YMCAの世界に飛び込み、就職後タンザニアのルワンダ難民支援活動や、パプアニューギニア津波災害の被災地支援活動への参加、発達障がいのある子どもたちの支援プログラムの開発と運営、ホテル専門学校の校長としてホテルマン、パティシエの養成に力を注ぐなど、幅広い分野で運営に携わり、青少年の育成に力を注いでこられました。

現在、私たちはウィズコロナからアフターコロナを迎えようとしています。徐々に行動制限が緩和され、多くの観光客が日本を訪れ、留学生の受け入れも回復しつつあります。また、ウクライナ紛争や世界的な災害の発生など、日本はもとより世界に目を向けた対応や支援が求められています。2023年度、新たなスタートを切った仙台 YMCAは、加藤雄一新総主事のもとスタッフ、役員、そして日頃よりご支援をいただいている皆様とともに、互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク「ポジティブネット」を広める活動を進めていきます。今年度も引き続き、皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

volunteer：山下 皓生 さん

私は仙台 YMCAでボランティアとして活動させていただいています。大学の友人からの紹介で YMCAでのボランティアにたどり着きました。子どもに関する知識も資格もないまま子どもとのキャンプに参加することになり、とても不安でしたが、スタッフやリーダー、子どもたちに支えられ無事にキャンプを終えることができました。現在では、サッカークラブやポップクラブのボランティアリーダーとして楽しく活動しています。活動を通してどうすれば子どもたちが安全に活動できるのか、楽しく活動できるのかを自分で考えたり、アドバイスをもらったり、仲間と悩んだりすることで YMCAでしか得れない経験をすることができました。私にとって YMCAでの活動は子どもたちの「心身の成長」をサポートするだけでなく、自分も子どもたちと一緒に成長していける場になっています。私はこれからも YMCAで活動できることを感謝し、楽しく成長できるような活動をしていきたいと思っています。

仙台ワイズメンズクラブ 会長　永井孝憲

「設立 75 周年を迎えました」

1948年12月8日、戦後の焼け野原の中、復興の途にあった仙台ＹＭＣＡの仮事務所の開設（同年7月）の後、仙台ＹＭＣＡのグループ活動の一つとしてチャーターメンバー23名のもと、当クラブは設立されました。1年の間に10名の新入会員を迎えたほどの活気があった時代です。そんな当クラブも今期（2022-2023）のメンバー数は功労会員を含め12名、メネット会5名であります。近年は新入会者どころか退会者が続き、苦しい運営環境です。

昨年6月、今期の会長を拝命し主題として掲げたのが『プランと行動、クラブの持続が奉仕の原点』でした。コロナの影響もあり、クラブ活動も控えざるを得ない1年でした。しかし、“withコロナ”が始まるこの折、私たち仙台ワイズメンズクラブも新たな歩みを始めることを2月例会で決意し、次期（7月～）を迎える準備を始めています。

本コラム寄稿にあたり、当クラブの隠れた歴史を記し、過去と歴史に触れ、新たな歩みのスタートとしたいと思います。

当クラブの設立は前述のとおり。この期日は国際協会より加盟認証を受けた日です。実は、その20年前に仙台ＹＭＣＡと当クラブについての記録が残っています。

1928年6月～10月、仙台ＹＭＣＡ羽田宗平総主事がアメリカＹＭＣＡ見学研修に参加したことから始まります。羽田主事（現総主事）は、帰国後、アメリカＹＭＣＡでの国際的ワイズメンズクラブの急成長、クラブ活動の活発化（ハイＹ、ボーイスカウトなど）、会館建設と館外活動、教派を超えたキリスト教会の合同などに影響を受け、ワイズメンズクラブの設立に強い使命感を持ったと語られています。羽田主事は、2月常任理事会にＹＭＣＡ社交部に4月よりクラブを設立し、活動を本格的に開始することの承認を得ました。しかし、国際協会への加盟はされていませんでした。

5か年で40回もの午餐会が開催され、1929年1月開催の午餐会では、会館建設募金募集のために青年会員の募集を検討したとの記録もあります。羽田主事とワイズメンズクラブで行われた社交部主催の活動は、「Ｙの日曜午餐会」「聖書研究宗教座談会」「Ｙズメンズクラブ例会」「在仙信徒親睦会」「夜間神学講座」「宗教座談会」「復活祭野外早天礼拝」「映画会」「Ｙのピクニック」「夏期伝道」などなど多岐にわたっています。ＹＭＣＡにワイズメンズクラブは欠かせない存在であった時代でした。会館建設募金募集の一環で開催された「映画会」では2日間で6,000名の来場者があったとの記録もあります。当時のＹＭＣＡの職員組織が羽田主事と若干名の事務職員のみであったこと、英語学校などの館内事業も行っていたことから、ＹＭＣＡとワイズメンズクラブが両輪となりＹＭＣＡの事業と運動を担っていたことが伺えます。その後、第2次世界大戦へと向かい、活動の範囲にも制限が加わり、国際協会への加盟が先送りとなったまま戦後を迎えることとなりました。

近年のワイズメンズクラブは高齢化が進んでいます。この4月、仙台ＹＭＣＡの組織が10年ぶりに再編されました。今期の当初に掲げた「プランと行動、クラブの持続が奉仕の原点」を今期の残り期間に計画を立て、クラブを持続できるように歩みを進めてまいります。そして、ＹＭＣＡを通して、ＹＭＣＡを超えて、クラブが更に活発に活動していけるように時には先達からの学びの“とき”を持つ設立75周年の1年にしたいと思っております。

仙台ＹＭＣＡの使命

私たち仙台ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。
私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。
私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。
私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。
私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。
私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。
私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

YMCAと私　　仙台市旭ケ丘児童館

「我が家とYMCA」　山口 雅子さん(山口 眞玄さんのお母様)

YMCAと我が家の最初の関わりは、現在社会人の長女が小学校に在学中に校舎の建て替えが行われ、新しくなった小学校に児童館が併設された事から、高校生の次女・中学生の長男、そしてアサヒガオカナインとして今年2年目の息子がまだ幼い時から、遊び場として行かせてもらった事から始まり、私が社会学級の運営委員長を務める事をきっかけに，児童館との共催をお願いし、コロナ禍前には年に2回程度の共催事業を行わせていただいてきました。また、学校支援地域本部の一員としての交流もあり、リーダーの方々とも接する機会が増えました。

そんな中息子の発達障害が発覚し、学校に行きづらさを感じていた所に、アサヒガオカナインを立ち上げるというお便りを目にして、色んな経験を家族以外と楽しんでもらいたいと思い、ボランティアへの参加を提案した所、本人も乗り気だったので参加させていただく事に。毎日の登校は難しい状況でも、ナインの活動の日は、自ら準備をして嬉しそうに家を出ていきます。帰宅して、活動の内容を聞くといつも『楽しかった』と。家族の誰かが一緒だと甘えが出てしまい、他の子たちとの交流も減ってしまうので、一人で参加し周りと協力していく事で、社会性・協調性が培われてきたと思います。このような機会をいただけた事を有難く思います。一番の思い出は川遊びで、ライフジャケットを身に着けて川の流れに流されるのが楽しかったそうです。焼きマシュマロは凄くおいしかったと、ニコニコで教えてくれました。

TOPIC　　仙台YMCA国際ホテル専門学校

石巻の英語教員だったテイラー・アンダーソンさんは、2011年の東日本大震災の津波の犠牲になりました。テイラーさんのご両親は、日本とアメリカの架け橋になることを夢見た娘の遺志を受け継ぎ、被災地の子どもたちへの支援を続けてきました。

ご両親は、リッチモンドYMCAのメンバーで、テイラーさんご自身もYMCAで育ったこともあり、現在も仙台YMCA国際ホテル専門学校の学生に奨学金の支援を続けてくださっています。

去る4月16日㈰、テイラー・アンダーソン記念碑の建立に際して石巻南浜津波復興記念公園（がんばろう石巻の看板がある公園）で行われた除幕式に清水弘一学校法人理事長とともに参加してまいりました。

4月17日㈫には、奨学生である仙台YMCA国際ホテル専門学校の学生たちとの交流会が行われました。交流会では、学生たちがテイラー夫妻に英語で自己紹介をしたり、夫妻から、支援を始めたきっかけを聞いたりしながら楽しいひとときを過ごしました。

一般会員・サポート会員を随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局
TEL：022-222-7634
FAX：022-222-2952

維持会費　（12月14日～4月14日）

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

維持会員A

横倉 純　鏡 慶一　太田 嘉嗣　坂本 満
伊藤 信弘　木村 俊介　深野 稔生
布施 直之　西田 猛和　村田 圭子
安田 匡志　坂本 育子　千葉 睦雄

維持会員B

加藤 研

法人会員B

(有)親愛社

パートナー会員B

加藤 真紀子

（敬称略）